

農業経営者 嘉数末弘

コメ一粒の可能性に懸ける 一粒点播×乾田直播への挑戦

岡山県では、1970年代には乾直の圃場が広がっていた。圃場整備によって田植機が導入され、乾直は減り、現在は恵まれた天候を味方に多くは移植栽培を行なっている。同県に乾田直播の一粒点播の夢を追いかける農業者がいる。専業農家に転向した嘉数末弘氏に、多収品種みつひかりで挑む乾直一粒点播やドリルの薄播きなどの試行錯誤について話を聞いた。

みつひかりの野生に
戻ろうとする力を逆手に

昆吉則（本誌編集長） 昨年、みつひかり2003の乾田直播（以下、乾直）の一粒点播に取り組まれたと伺いました。稲姿を見せていただきましたが、見事なものですね。嘉数末弘 そうですね。自然界にポソ種を落とされて思い通りに大きくなって。一穂当たりの粒数が40

0粒以上ついていたことにはビックリしました。まだ播種機が不安定で、種が落ちないところは欠株になるんです。発芽して青く見えるようになってからの数週間は、胃が痛くなりま（苦笑）す（苦笑）昆 それにしても、やっぱりこの稲を見ると、一粒点播はすごい。嘉数 底力がね。改めて僕らのこれまでの認識を変えなきゃダメだなと思えます。今までは茎数を取るために沢山種を播くというやり方でした。

た。籾というのは、落とせば落とすほど、分けつはしてもお互いがぶつかり合って淘汰されて面積当たりの茎数が減って、結局中の方は枯れてなくなります。芽は出るんだけど途中でなくなる苗もある。そうすると、期待したように穂数は取れず、1株が7〜8本とかいう小さい株になってしまうと。昆 むしろ、コシヒカリなんかより、みつひかりの方がそういう性質が強く出ますね。そもそも、野生種に近い生命力の強い稲だから。嘉数 そうですね。だからハイブリッドのコメというのは、逆に言うたら、野生に返ろう、返ろうとする力が強いわけじゃないですか。それを逆手にとって、上手に利用していけば面白いですよ。昆 一粒点播はいつから始められた

んですか？
嘉数 一昨年にアケボノという品種で始めました。近畿中四国農業研究センターの藤本先生の協力のもとバーチカルハローシーダ（8条播き）を持ち込んで。昆 播種量はどのくらいですか？
嘉数 10a当たり300〜400gくらいですね。他にもみつひかりだけでも、ドリルで1・6kg/10aの薄播き、ポット苗を使った一粒移植、無代かき移植、慣行移植といった方法もやっていて、ここに来ていただければ何でも見られますよ。昆 いろいろな方法を試していってほしいんですが……。嘉数 一粒移植が一番安定しています。ただ、発芽率が絡んでくるので欠株を嫌う一般の農家さんには難しいですね。



乾田直播・一粒点播のみつひかり2003圃場 (2012年9月4日撮影)

昆 欠株しても問題ないのね。
 嘉数 これだけ発芽して、大きな株に育てば何の問題もありませんね。乾直も出穂が揃います。初期には長いもの、短いものがありますが、追いついてくるんです。

未来を見据えて1・3haに55馬力トラクタを導入

昆 今の作付面積は？
 嘉数 今年少し増えて17haになりましたね。転作はしていませんが、裏作の麦は天候不順で今年は2haしか播けませんでした。

表 平成24年度の10a当たりの収量

アケボノ	移植	540 ~ 658 kg (平均 570 kg)
	一粒点播	602 kg
みつひかり2003	移植	700 ~ 900 kg (平均 776 kg)
	一粒点播	673 kg

昆 面積は増えてきていますか？
 嘉数 この地域の条件の良いところは他の大規模農家さんと取り合いになるので、この周辺では25haぐらいが限度だろうと思います。後継者が少ないなか、幸い次男が一緒にやってくれています。うちはこの地域で一番新参者なんです。それが一番変わったことをするからちよつと他の農家からは敬遠されますけれど(笑)

昆 品種としては何を作っていますか？
 嘉数 メインはやっぱりアケボノです。岡山県南では多いですよ。業務用で食味はそんなに良くない品種です。価格としても低いランクですけど、ただ安定して穫れるし、肥料もそんなに要らない。だから地の利によく合った品種ですね。だいたい



乾田直播・一粒点播みつひかり2003 (5月7日播種) の稲姿

平成23年度米で、60キロで1万4300円くらいでした。
 昆 出荷はどうされていますか？
 嘉数 籾すりして、フレコンで15本くらい溜まったら、電話一本ですぐ取りに来てくれます。
 昆 秋に一括して売っちゃっているわけですね。
 嘉数 そうですね。業務用量販のコメですから、食堂とか弁当屋さんとかに売られるのでしょね。
 昆 嘉数さんがコメ作りを始められたのは、いつ頃からなんですか？
 嘉数 本気でやり始めたのは、まだ8年ぐらい。1・3haの自作農地は父親の時代からずっとやっていました。あくまでも、水田があるからお守りをしていくという感じのもので、それから、それで生計が成り立つわけ

でも何でもありませんでした。
 昆 もともとの日本の農家の暮らしをしてもらったんですね。
 嘉数 ずっとケーブルテレビや音響工事の仕事をしていたので、兼業農家でした。ただ、年を取ったら高所作業は厳しいなど。それで50歳の頃に55歳になったら本格的に農業に専念しようと思ったんです。約10年前は水田面積が1・3haでした。農地もない、実績もないというところからの再スタートで、まず農機具を買い始めました。
 昆 初めに買われたのは？
 嘉数 1・3haの水田にこの地域では大型だった55馬力のニューホランドのトラクタを導入しました。周辺からは冷ややかな目で見られたものです。それからすぐに3haになって

しばらく続きましたね。その当時の金額で10haくらいあれば、僕が定年退職、電気工事の仕事を終えてからも何とか食えるかな、という試算のもとに始めたのですが、今ではこの辺でも20haは必要ですね。

乾田直播に適した地域の プラウ&レベラの使い方

昆 水は得やすい場所なんですか？

嘉数 ここは吉井川からのパイプラインがあつて、入れただけバルブを捻れば、自由に使えます。排水に関しては、揚排水組合の費用として全体で年間8万円くらいですね。給水は1反が2500円ですから、そんなに高いお金じゃないですよ。昆 それは安いですね。よく言われる、周りで代かき始めちゃうというような問題はないんですか？

嘉数 あります、あります。うちが早播きして、田植えでも早くしようと思つても、隣に乾直の圃場があればできないですし、まだ麦が作付けしてあつたら、そこも水を入れられないですし、そういう不便さはあります。6月10日ぐらいになればどこでも水を入れます。早いところでは3日には入れ始めますから。ただし、冬水が落ちなくて、半分か3割くらいは絶えず残っています。

昆 水位が高いわけですね。ああそうか、もともとこの辺りは乾直のエリアですもんね。

嘉数 8割、9割は乾直でしたからね、ここは。私もやっていました。

昆 みのる産業が一時小さな乾直の機械を作りましたでしょ？

嘉数 それをずっと使っていました。

昆 前にどんどん乾直が減つてしまふという話を伺いましたが、ずっと乾直を続けていたんですか？

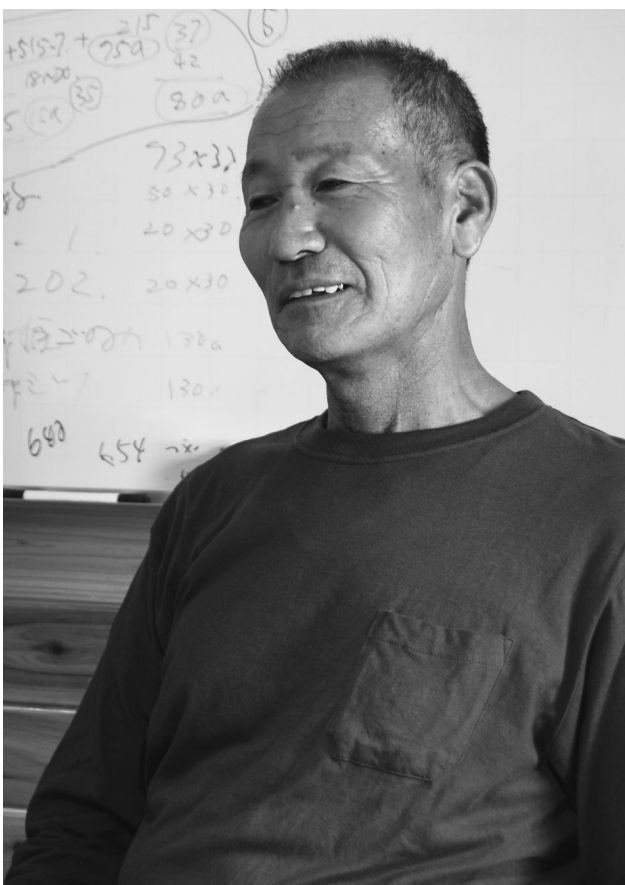
嘉数 この地域の圃場整備は2000年に始まったんですが、それまではずっと乾直。圃場整備が終わつても残っていました。ただ、圃場整備が終わつた時点で圃場に凸凹があるだろうし、代かきをしないと元に戻らないからという理由で、JAからとにかく田植えで一回全部やつてくださいと。田植機が入つてきて、乾直が減つていったんです。

昆 当時も圃場にプラウをかけるということはなかったわけでしょう？

嘉数 なかったです。

昆 先ほどあちらにダウズウエルの古いプラウがあつたけれど、あれは昔から使われていたんですか？

嘉数 5年くらい前ですね。近所の牛屋さんがもううちでは使えないからということ、30万円を買つたんです。16インチで、ボードも6枚つ



嘉数末弘

■プロフィール (かすう・すえひろ)

1948年岡山県瀬戸内市生まれ。岡山県立東岡山工業高校を卒業後、会社勤めを経て電話工事や音響通信の仕事に就く。農繁期のみ実家の水田90aを手伝う。1968年に(有)弘三商会(釣り餌養殖業)を設立するが、負債を抱えて72年に業態を通信音響工事に変更。負債返済に目処がついた50歳の頃に高所作業を続けることに限界を感じ始め、55歳から農業に専念することを決める。翌年、水田1.3haに55馬力のトラクタを導入し、プラウなどの大型作業機や乾燥施設などを買い始める。2012年より次男の豪(いさむ)氏とともに専業農家へ。作付面積は水稲17ha。



労働人員は後継者である次男の豪（いさむ）氏（左）と2人

いてきました。直線で長い距離を曳くには安定しています。でも、刺さり込みが悪いし、長いし……水田ではキツイです、正直なところは。

昆 プラウの後の作業は？

嘉数 土がこねれないところはバーチカルハローをかけますが、一冬置くと、きれいに凍ってモせてパサパサになるんです。その時は直接レベラをかけていますね。

昆 そのくらいに崩れる本来のいい土になっっているんですね。

嘉数 一回水分が切れてそれが凍るとね。そうすると扱いやすくなるんですけどそのまま乾燥させると、石より始末が悪い。

昆 年内に起こして、寒に当てられ

れば、そういう風になりますね。

嘉数 1月の末くらいまでに粗起こしをプラウで何とかできれば、いい状態で春を迎えられます。1haくらい、大きい機械が入れなくて、プラウをかけられないところ以外は全部起こしています。

昆 プラウをかけた圃場は毎年レベラもかけているんですか？

嘉数 かけています。

昆 毎年やる必要がありますか？

嘉数 今は無理やり30cm近い深さまでプラウで起こしていますから、どうしても山が大きくなるので、14インチプラウで深さ20cmくらいに起こせば、毎年レベラは要らないのではないかなと思っていますね。プラウでどちらかへ寄った土を戻すだけなので、深さ20cmなら多少どちらかが高くなるくらいでレベラの必要がないんです。

昆 基本的に一般的な皆さんは深さ20〜25cmくらいですからね。

嘉数 バーチカルハローを上手く回転方向さえ気をつけて使えば、跳ね出す方向と土を飛ばす方向があるから、土を動かしたところへ土を戻せたらレベラは要らないかなと思ったりますんですけど。

昆 先日、千葉の瀧島秀樹さんがおっしゃっていましたが、周り耕でやるというのも一つの手で、何

でもリバーシブルがいいと決めてかかっているけれども、こんなに小さい圃場でリバーシブルでやるべきなのかってね。

嘉数 うちらも場所によっては、くるくる回っていますよ。今までやってきた方法がすべて正しいとかいうんでなくて、絶えず、新しいやり方をチャレンジしていていますね。

一粒点播の夢を見ながら面積拡大に備えた挑戦を

昆 稲作で後継者がついているというのには限られているし、僕はどう考えても日本の農業はコメが一番可能性が高いし、どう考えてもコメが一番優位性がありますよ。

嘉数 リスクは少ないしね、だから多収米みたいなもの作って経費を減らしてね。結局、連作可能な土壌を作りさえすれば、コメもやっていけるんじゃないですかね。

昆 昨年のみつひかりは9月時点の収量予測では1t超えてしたね。

嘉数 残念なことに、反収は673kgでした。予定していた株数の6割程度しか播種できていなかったのですね。来年は900kg近く獲りたいです。みつひかりの収益はいいですね。1tいなくても、900kgをオーバーした時点で、完全に逆転します

から。

昆 人手も機械も揃っていますし、50ha、60haと面積をこなしても不思議じゃないなと思うのですが。

嘉数 そうですね。圃場さえ集まれば、そのくらいの面積なら今の設備で十分いけると思います。昨年からは農業専業になりました。30haくらいになったら、また農業法人として改めて立ち上げて行こうという話を息子たちとしています。

昆 これだけ色々なことを積み重ねてくると、他の人とは違う判断ができるのではないですか？

嘉数 そうですね。面積にゆとりのあるうちに、まだまだ色々試験をしてみようと思っています。

昆 今年はどんなチャレンジをされるんですか？

嘉数 昨年もやってみたのですが、ドリルの薄播きを考えています。条間を狭めてやってみようかと。

昆 一粒点播も挑戦を続けますか？

嘉数 一粒点播には夢があります。一粒のコメの可能性に懸けるといいますか。移植では見られない生命力に満ちた稲姿を目指しています。ただ、うちのようにマニアックな農家はいいのですが、商業ベースであれば二粒でしょうね。

昆 ありがとうございます。今年の稲作も楽しみにしています。